

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No. 28
1996. 1. 1

父の記念図書室

Paul L. Swanson

父が亡くなったのは丁度一年前のことである。去年の9月の末、病状が深刻になり回復の見込みが薄いと診断され、私は大学の許可を得て一時米国に帰ることになった。一週間というわずかな期間ではあったが、まだ意識がはっきりしている内に父に最後の別れをいう事ができた。その時の思い出は沢山あるが、もっとも印象的だったことは、父が最後まで陽気でよく笑いながらまわりの人々と冗談をかわしていたことである。病院に尋ねて来た人々も最初は暗い顔で部屋に入ってきて、しばらくすると笑いながら涙をながしていた人も少なくなかった。最期が近いのに笑っていられるのか、と思った方もいただろうが、死に直面しているからこそ、冗談好きの父は親しい友人や家族と一緒に笑い続けたかったのであろう。

亡くなった後には父はお葬式の代わりに教会で充実した一生と、天国への凱旋を祝う式を込めた礼拝 ("celebration service") を開くことになっていた。この礼拝の企画にもっとも熱心だったのは父本人で、どの歌が歌われ、だれが家族や友人、教会の代表として挨拶をするのか、また、礼拝に出席する方に迷惑だからあまり長時間にならないように、と、一々細かく指示した。礼拝は一応11月19日に行うことまで決めたが、あるとき兄が父に「その日にはまだこの世に居たらどうしますか。」と聞いたところ、父が「まだ生きていたら、私はこの礼拝に特別出演させてもらおう。」と笑った。結局そんなことはない結末になったが、もしその日まで生きていた

なら、また笑いながら楽しい一時を過ごしていたのであろう。

私は父がまだ生きている間に日本に戻らなければならなかった。また、11月の礼拝にも出席することはできなかった。しかし、今年の夏に家族を連れてまたミネソタ州の母を訪ねることができた。そしてこの間に父の故郷であるサウス・ダコタ州のスー・フォールズ市を訪ねた。この市には、私の両親の日本での三十五年間の宣教師としての活動を援助してくれた、父の母教会がある。その教会が7月の末に私達家族を招き、父のための記念礼拝を開いてくれた。数百人が集まり、私はやっと父の追悼を正式に行うことができた気がした。この記念礼拝で特にありがたい一つの発表があった。それは、父を記念して寄付された数万ドルの基金によって、教会に父の名を付した新しい「記念図書室」が設けられるというものであった。読書の大好きな私にとって、これよりうれしいことはなかった。

皮肉なことに、父はそれほど読書に熱心な方ではなかった。どちらかという「活動」タイプであったが、とにかくその子供である私達兄弟には読書の大切さを教えてくれ、そのことは、私の人生に大きな影響をあたえた。「図書室」という場所はある意味で聖なる空間であり、静かに本を手にとり、過去のことを学んだり、新しい発見をしたり、密かに夢を覗く機会を得られる場所である。多くの方が父の記念図書室を有効に利用してくれることを願うばかりである。

(Paul L. Swanson : 南山宗教文化研究所所員 文学部教授)



研究センター紹介第4弾！
社会倫理研究所



あるH GEMMA IIで資料を探していて
“(810)/132D/Sa93・・・社倫研”という
結果がでて、「・・・へ?? 社倫研って?」
と思ったことのある学生諸君も多いのでは
ないでしょうか。



What's 社倫研?



そこで、今回の研究センター紹介は“社倫研”です。

◆◆◆社倫研ってどんなところ?◆◆◆

通称「社倫研」は、正しくは、「南山大学社会倫理研究所」といって社会倫理に関する諸問題の研究を柱に、その為の資料を収集したり各研究者のネットワークとなる為の活動をしている所です。

一般に倫理学といえば、宗教・哲学・倫理学という分野でひとまとめにされることが多いのですが、社倫研ではキリスト教社会論をベースとして法哲学・社会倫理・経済倫理・環境倫理・生命倫理の5つの分野を中心に研究をすすめています。



(研究課題に関するシンポジウムや懇話会なども主催しています。)

◆◆◆さて、その蔵書は?◆◆◆

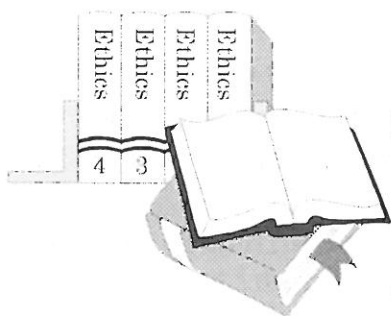
上記の5つの分野に重点をおいた1万冊を超える資料を所蔵しています。中でも、

『Bio-ethics』

『Ethics』

『Encyclopedia of Bioethics』

という3種類の資料は生命倫理の歴史がわかる大変重要な辞典で初版から改訂版まで揃っています。





また、雑誌の所蔵も充実しています。特に、

『Herder bücherei』

のシリーズは新書でほぼ揃っており、これらの資料は各分野の研究者や、外部の倫理関係の学会からの問合せが度々ある程でその所蔵の充実ぶりは全国でも、1、2位を誇るものといえます。



◆◇◆ 出版物はないの？ ◆◇◆

『社会倫理研究』――年報

『南山社会倫理研究叢書』――3年に一度位の割合で発行しています。

また、'80～'90の蔵書目録が作成されています。（'91～の目録も発行予定）

こんな優れた研究所を利用しない手はない！！

次は、社倫研の利用方法をお知らせします。

場所

図書館のすぐ隣、第一研究棟の6Fです。エレベーターをおりて右斜め前の部屋（G13号）。図書室は通路を挟んだ別室で、通常は鍵がかかっているため、職員（G13号）に言ってから利用して下さい。

利用時間

10:00a.m.～11:30a.m.
12:15p.m.～16:30p.m.
（土曜日は午前中、職員がいる時のみ利用可。）
日・祝日、及び大学の定める休日は閉室となります。

利用資格・利用手続き

南山大学の学生であれば、誰でも利用できます。あらかじめ、学生証（教員や学外の方は身分証明証、またはそれに代わるもの）を職員に提示して下さい。



なるほど



ようこそ、社倫研へ！！



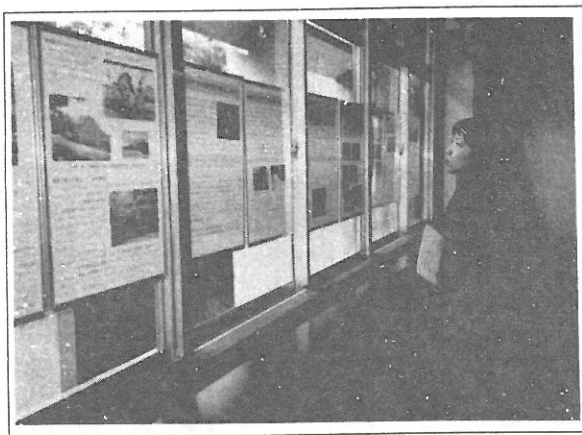
【秋の企画展報告】



蝶の飛ぶ南山のもり

を終えて…

1995年10月30日～11月1日



大学のカリキュラム改革の必要性が叫ばれて以来、この数年にどっと急激な変化が起こり、日本の大学も一時的には大きく変わりそうな気配です。しかし、どの大学でも「教育抜きの改革」だと囁かれているようで、すこし「教育機関として」の冷静さを取り戻すことも必要ようです。

そんな状況の中で生物学教室として、今回の展示会は、「大学の講義との連動」という部分に出発点を置きました。これまでの大学の講義の多くは、教員と学生が教室という閉ざされた空間の中で1時間を過ごすものです。しかし、これからの大学では、

どのような内容をどのように教育していくのか、広く批判を受けることができるようなシステムを確立しなければなりません。生物学教室では、かなり早い時期からこのようなカリキュラム内容の改革に着手し、その方向性のひとつとして今回の展示会を位置付けました。実際に準備は1年半前に始まり、テーマ科目のうち、生物学教室が提供している「森と人と生物たち」および「自然環境と生物」と連動するように企画しました。この「講義との連動」が成功したかどうかは別といたしまして、展示期間中に約900人が来場したとのことで、予想をはるかに越えたものでした（どうやら図書館の皆さんの努力の結果のようですが）。

生物学教室としては、このような緑や森の環境に関する話題は一般的にはマイナーなものだと考えていましたが、じつは意外なところに反響があり、少々面食らったというのが本心です。それは来場者のなかで圧倒的に女性からの関心が強かったというものです。今回の展示内容は人間と緑の環境との精神的な接点に重点を置いたもので、本来その接点に男女の差はないはずですが、さらに展示物は「虫」ですから、一般的にはむしろ女性に敬遠されがちなはずですが、ところが、女性からの質問は「環境観」のかなり切実な問題にまで踏み込んだものでした。この話をある女性にいたしましたら、痛烈な答が返ってきました。

「江本さん、女性は子供を育ててんですからね。」

環境問題が世界で騒がれ始めてずいぶんとなりますが、フランスでは「力の論理」で核実験を再開しました。こんなこともあります。男性のダーウィンは、「個体の優劣、競争」などを基礎に生物の進化を説明しました。近年、女性のリン・マグリスは「共生」を基盤に細胞の進化を説明し、大きな反響を得ています。これはたまたまかもしれませんが、男性と女性の「見方」がこんなに違うのかと、実感した展示会でした。

展示会が終了し、先日図書館の前を通りましたら、はやくも掲示板は新しい企画の「オーストラリア」に替わっていました。なにげなく通り過ぎる掲示板ですが、活発な図書館活動のバロメーターのようです。このような活動が大学教育の一貫としてクローズアップされるようになるのはいつの日なのでしょう。

(生物学教室 江本 純)

来館者の声

多数の来館者の方々がアンケートに協力してくださいました。
その中から一部紹介いたします。

入館者数
915人

★今回の企画展についての感想をご自由にお書き下さい。

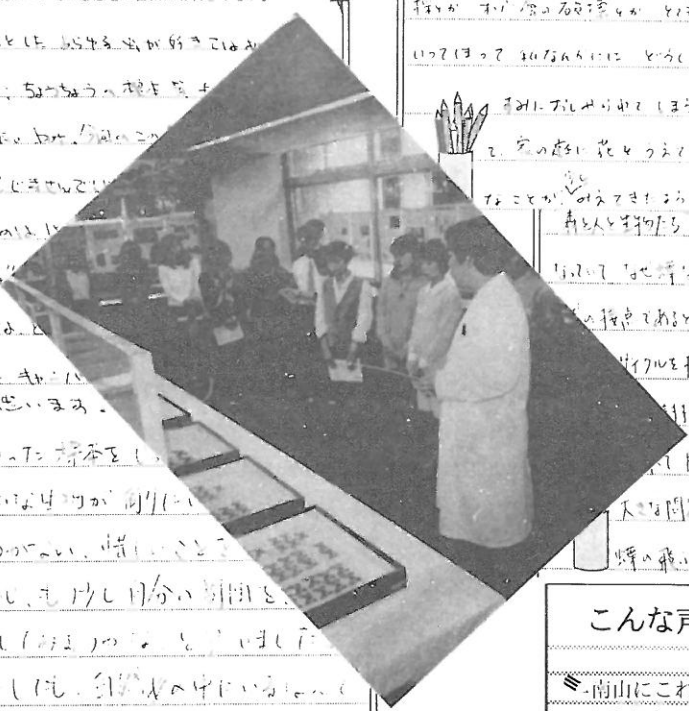
自然と人間という繋がりが、自然は人間に恵
まれておられることが、自然界に生息する動物
は、人間の活動によって生息地が奪われるか
と、人間が自然を破壊するのではなく、人間が自然を
守ることが大切だと思いました。

★今回の企画展についての感想をご自由にお書き下さい。

今回の企画展は、自然と人間の関わりが
よくわかりました。自然は人間に恵まれて
おられることが、自然界に生息する動物は、
人間の活動によって生息地が奪われるか
と、人間が自然を破壊するのではなく、人間が
自然を守ることが大切だと思いました。

★今回の企画展についての感想をご自由にお書き下さい。

今回の企画展は、自然と人間の関わりが
よくわかりました。自然は人間に恵まれて
おられることが、自然界に生息する動物は、
人間の活動によって生息地が奪われるか
と、人間が自然を破壊するのではなく、人間が
自然を守ることが大切だと思いました。



今回の企画展は、自然と人間の関わりが
よくわかりました。自然は人間に恵まれて
おられることが、自然界に生息する動物は、
人間の活動によって生息地が奪われるか
と、人間が自然を破壊するのではなく、人間が
自然を守ることが大切だと思いました。

こんな声が多く聞かれました

- ≡ 南山にこれほど多くの蝶がいるとは思って
もなかった。
- ≡ これから南山の自然や身近な環境を観察し
ていきたい。
- ≡ 愛知万博による環境破壊が心配。
- ≡ 子供のころを思い出す。
- ≡ もりにも色々な種類があり、一口に自然と
いっても複雑であることに気付かされた。
- ≡ 人間の勝手な都合でおこる環境破壊につい
て、もっと真剣に考えるべき。

等等...

今回の企画展は、自然と人間の関わりが
よくわかりました。自然は人間に恵まれて
おられることが、自然界に生息する動物は、
人間の活動によって生息地が奪われるか
と、人間が自然を破壊するのではなく、人間が
自然を守ることが大切だと思いました。



御協力ありがとうございました。

<ライブラリアンズ・ハート>

Librarian's heart

7年ぶりに図書館にもどって

この7月1日付けの人事異動で、7年ぶりに図書館にもどってきました。最初の印象はそのあまりの様変わりに驚きもし、また当惑もしました。(いま浦島の気分です。)というのも、コンピュータシステム化が随分進んでいたからです。

南山大学図書館は、東海地区の他大学に先駆けて、かなり以前からコンピュータシステム化に取り組んできました。私のいた7年前でも導入はしていたのですが、ユーザーの皆さんが端末を操作できる資料検索サービスを開始したばかり(草創期)の頃でした。(それ以前は、1階閲覧室に残っているカード体目録・冊子体目録・製本台帳といったペーパー形式のものから資料を検索しており、コンピュータはいわばハウスキーピングとして使用していただけでした。)

今の図書館のシステム化には、目を見張るものがありますが、南山大学図書館は、目覚ましい進歩を遂げている情報化社会の縮図ともいえるでしょう。

まだ、図書館システムが全て完成しているわけではありませんが、南山大学に籍を置く皆さんには、そのような環境の中で資料を探したり、利用することにより、コンピュータを身近なものに感じてもらい、楽しみながら図書館を利用してもらえる、そんな場にできればと思っていますし、私達、図書館員は多くの資料を皆さんに有効に使われる橋渡しができればと思っています。

(逐次刊行物係 日置俊雄)

ねずみ  アルジャーノン  Flowers for Algernon

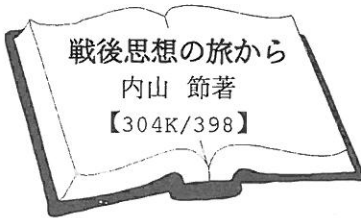
今年はねずみ年なそう。ねずみといえば思い出すこの一冊、「アルジャーノンに花束を」。なぜかという、と、「アルジャーノン」はねずみの名前なのである。(単純な発想だ...)この小説に出会ったのは、私が高校生の頃だから、もう十数年も昔のことになるろうか。学校の帰り道、とある市立図書館にふと立ち寄り、そのへんにあった本をふと借りてみた。

ある手術を受けたねずみのアルジャーノンは驚異的に知能指数を上げていく。同様の手術を受けたIQ70の主人公チャーリーもどんどん天才になっていく。だが、ある時点からアルジャーノンの様子がおかしくなり、急速に知能指数を失っていくのを見て、チャーリーは自らの行く末を知る...というのがだいたいのストーリーである。文章はチャーリーの経過報告スタイルで書かれており、読者は文章の変化でチャーリーのIQの変化をも知る。ラストのチャーリーの「ついしん...アルジャーノンのおはかに花束を...」に至っては涙を流さない者はいない。SF小説なのだが、内容的にも感動的な本である。ストーリー以外にも感銘をうけたのが翻訳のワザである。原文はいったいどうなっているんだ、この邦訳と比べたりなどしてみたいものだ、とかねがね思っていたところ、大学時代の英作文のクラスの恩師が最後の授業で原書のコピーをなぜか私達に配ってくれた。かくして、さらに思い出深い一冊となる。

目的の本を探すため、GEMMA IIやデータベースを利用するのはもちろん必要不可欠なことだ。この情報社会の中では自分に必要な情報をいかに上手に取捨選択していくかが鍵になる。でも、時には無駄な時間を費やすゆとりを持ってみたいものだ。目的もなく図書館をさまよってみたり、意味もなくグリーンエリアに寝ころがって空を見上げたり。思わぬ本に巡り会えるかもしれない。見えなかったものが見えてくることだってあるかもしれない。そんな時、無意味な時間がとても大切な意味をもってくる。

そんなわけで(?)今年も図書館をよろしく。

(整理係 太田直子)



1995年は日本列島が揺れに揺れた年でした。振り返ってみると、阪神・淡路大震災、オウム事件、沖縄の少女暴行事件等々枚挙にいとまがなく、「亥年には天変地異が起こる。」という説もあながち嘘ではないかもしれないと思ったものでした。

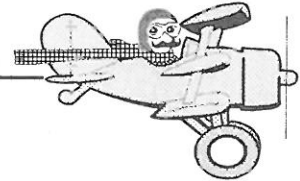
今回、私がお薦めする本は愛読書の一冊として大切に懐から取り出したものではなく、こんな時代だからこそ自分が読みたいと思ひ捜し出したものです。というのも、次から次へまるで湧き出さずにはいられないように起こる事件を見据えるためには、戦後という時代を、自分の頭の中で今一度整理する必要があるのではないかと考えたからです。

この本は、1989年10月から1991年2月まで信濃毎日新聞で連載された記事をまとめたもので、戦後思想がどのように形成され、現代に至るか、そして、新しい思想の展望がどのように開けているかがエッセー形式で書かれています。

思想というととても堅苦しい、ともすれば誤解されやすい話題です。でも、誰しも時代の子であり、自分自身の思想は戦後からの流れの中にあるものです。オウムにせよ、沖縄の事件にせよ、その流れの中の出来事のひとつでもあります。時代の大きなうねりの中であなたはどのように現代を生きていくのでしょうか。

(整理係 加藤理穂)

閲覧カウンターから
春期長期貸出のお知らせです!!



いよいよ後期試験が迫ってきました。準備は万端ですか？
図書館では、春休みにむけて、長期貸出を下記の要領で行ないます。

- 1月19日(金)から2月8日(木)の期間に長期貸出を希望すると4月まで借りることができます。(例えば、1月19日に借りた図書の返却日は4月2日になります。)
- 学部学生の1～3年次生と研修生・聴講生・留学生なら誰でも「長期貸出をお願いします。」の一言で借りることができます。
- 長期貸出は、10冊まで。
一般図書5冊(2週間)、指定図書2冊(1週間)は、いつも通り借りられます。(ただし、指定図書の長期貸出はできません。)

詳しいことは、閲覧カウンターで聞いてね!

ライブラリーカレンダー

1996. 1~1996. 3

1 月					2 月					3 月					
9:00		4:30		6:30		長	書	9:00		4:30		6:30		長	書
0:00		6:00		8:00				0:00		6:00		8:00			
1(月)								1(木)							1(金)
2(火)								2(金)							2(土)
3(水)								3(土)							3(日)
4(木)								4(日)							4(月)
5(金)								5(月)							5(火)
6(土)								6(火)							6(水)
7(日)								7(水)							7(木)
8(月)						★		8(木)							8(金)
9(火)								9(金)	休館						9(土)
10(水)								10(土)	1996年度入学試験						10(日)
11(木)						★		11(日)	のため						11(月)
12(金)								12(月)	2月13日まで						12(火)
13(土)						★		13(火)							13(水)
14(日)								14(水)							14(木)
15(月)	成人の日							15(木)						★	15(金)
16(火)								16(金)							16(土)
17(水)								17(土)						★	17(日)
18(木)						★		18(日)							18(月)
19(金)						☆		19(月)						★	19(火)
20(土)						☆	★	20(火)							20(水)
21(日)								21(水)							21(木)
22(月)						☆	★	22(木)						★	22(金)
23(火)						☆		23(金)							23(土)
24(水)						☆		24(土)						★	24(日)
25(木)						☆	★	25(日)							25(月)
26(金)						☆		26(月)						★	26(火)
27(土)						☆	★	27(火)							27(水)
28(日)								28(水)							28(木)
29(月)						☆	★	29(木)						★	29(金)
30(火)						☆									30(土)
31(水)						☆									31(日)

: 開館時間
 長 : ☆春季休暇中長期貸出取扱期間
 書 : ★3・4年次生書庫入庫日 (月・木曜 1:00~4:30p.m., 土曜 9:00~11:30a.m.)

※図書館利用講習会は4月より再開します。

《編集後記》

心機一転、新たな分野を目指して、
 いろんな書物をかきつりませんか？

(タイトルデザイン:加藤富美)



南山大学図書館報 デュナミス No.28
 1996.1.1 発行

南山大学図書館 広報委員会
 編集委員：伊藤(法), 野村, 長谷川, 牧野
 〒466 名古屋市昭和区山里町 18
 Tel. 052(832)3707
 Fax(G3) 052(833)6986